

抄読会 (分野打ち合わせ)

少子高齢化社会における小児医療の医療資源予測のための空間解析

博士課程 2 年目 田邊雄大

概要

昨今、急速に日本は少子化が進行している。合計特殊出生率（女性一人が人生で出産する人数）は 1.20 まで低下しており、政府は少子化対策を講じるものの、効果は得られていない状況である。しかし、これは日本だけの問題ではなく、国際的な問題であり、今後多くの国で人口は減少に転じると言われている。将来に渡って更に進行する少子化社会において、医療資源（病床数）をいかに適正に配分すべきかを検証するモデルを構築するための、空間解析の可能性を検証した。

今回は、前回に引き続き、空間解析の実践を紹介した。今回は、都道府県別での小児人口の変化について、空間解析を実施し、空間相関があることを示した。Moran I や LISA などの式の詳細についても説明をさせて頂いた。今後は、予測モデルの方法について、実践していく予定である。また、研究テーマとしての、医療資源予測としては、算定された入院管理料を代理指標として用いることの妥当性について、専門家に意見を聞く予定である。

研究の方向性などについて多くの意見をいただき、議論をさせて頂いた。博士研究の目的である、「将来の病床予測モデル」に近づけられるように、検証を進めて行く予定である。